

MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2012 Vol.17

TAKE FREE
夏の増ページ号

発行元：株式会社 松永建設
発行人：松永大祐
〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
TEL ▶ 048-798-1751 (代)
TEL ▶ 0120-980-633 (フリーダイヤル)
FAX ▶ 048-798-0075
URL ▶ <http://www.matsunaga.gr.jp>

感動創造建設会社
株式会社 松永建設

起こりうる大地震に備えて――

「生き延びる力」を持つ！



首都直下地震や、南海トラフを震源とする地震など「次に来る大地震」の可能性が次々と発表されています。しかし今、私達がすべきなのは、怯えることではありません。どんな備えをし、どんな一手を打つべきかを検証します。

被害想定とは どう受け止めるべきもの？

4月中旬、東京都が首都直下地震などによる被害想定を全面的に見直し、結果を公表しました。最も大きな被害想定を見ると、死者・負傷者は15万人強、建物被害は30万棟強。そして帰宅困難者は500万人以上にも到達するという予測は、大変ショッキングなものでした。東京に隣接し、同じく首都圏を構成する埼玉県にとっては、もちろん“対岸の火事”ではありません。

実は埼玉県も東京都同様、地震被害想定にはかなり以前から取り組んでおり、現在、平成19年度に出した被害想定を新たに見直す作業に入っています。その結果はいずれ発表されることでしょう。

ところで、被害想定が公表されると、あたかもそれらの地震だけが本当に発生しやすいかのようなイメージを持ってしまうことは多いものです。しかし、「決してそうではありません」と語るのは、埼玉大学の地圏科学研究センター長の川上英

二先生。川上先生は地震時におけるライフラインの安全性や信頼性を研究する、都市地震工学が専門。先生によれば被害想定とは、考える地震のうち代表的なものを取り上げ、被害の平均像を予測しているに過ぎないものなのだから。そのため、「立川断層が心配だから引越そう」といったような、特定の結果に過敏に反応する必要はないとも語ります。

被害想定は、いたずらに市民を怯えさせるために発表されるものではありません。ひとたび巨大地震が発生すれば、こういう状況が起こりうるという全体像を把握・理解するためにあります。そして、被害を極力小さく止めるための努力をし、備えを万全にすることこそが肝要であるはずです。

地震のメカニズム 活断層型とプレート間型

地震学が成し遂げた20世紀最大の成果は、地震のメカニズム――つまり断

層の動きと地震の因果関係がはっきりしたことだと川上先生は語ります。それにより、理論的な地震解析が可能になりました。

大きな揺れの心配される地震の型は2つあります。1つは活断層型の地震、もう1つはプレート間地震と呼ばれるもの。①活断層型は、発生の間隔が数千年から1万年と非常に長いのが特徴です。滅多に発生しない代わりに、ひとたび断層が滑ると、近辺では非常に大きな揺れ、および被害が考えられます。というのも、プレートと比べ、断層は地表にかなり近いところにあるからです。場合によっては地表に現れている断層もあります。

対して②プレート間地震は、数十年から100年という比較的短い周期で起こります。ですが、海洋プレートと大陸プレートのせめぎあう境界(震源地となる)は、①の活断層と違ってかなり深いところにあるため、陸地との距離などによっては揺れは小さくて済むことも。

ご存知の方も多いかと思いますが、プレートは常に移動しています。大陸プ

レートの下に、海洋プレートがぶつかって沈み込んでいる境界が、海溝やトラフと呼ばれるもの。プレートの移動する速度は「爪が伸びる速さと同じ程度」と川上先生。「1カ月で約1cm、1年で10cm、なんと100年では10mも移動します。その移動によって生じた歪みが限界に達したとき、歪みを解放しようと地震が起こるのです」

ちなみに、地震の大きさを表すものには、震度とマグニチュードがありますが、震度は「どのくらい揺れたか?」――つまり揺れの程度を数値化したものです。対して、地震そのものの大きさを表すのがマグニチュード。大地が歪みを解消するときに放出される、エネルギーの量そのものを指します。

たとえばマグニチュード(M)7と8、数値にすると1しか違いますが、放出されるエネルギー量には約30倍の差があります。2違えば、30の二乗で約1000倍の差となります。1995年の阪神淡路大震災を起こした兵庫県南部地震はM7.3、昨年の東北地方太平洋沖地震はM9.0。どちらも未曾有の災害を招いた巨大地震ですが、地震そのものの規模は、東北地方太平洋沖地震のほうがはるかに大きいものでした。兵庫県南部地震がまとめて数百回起きた規模だったのです。(次頁へ続く)

地震による東京の被害想定(概要)

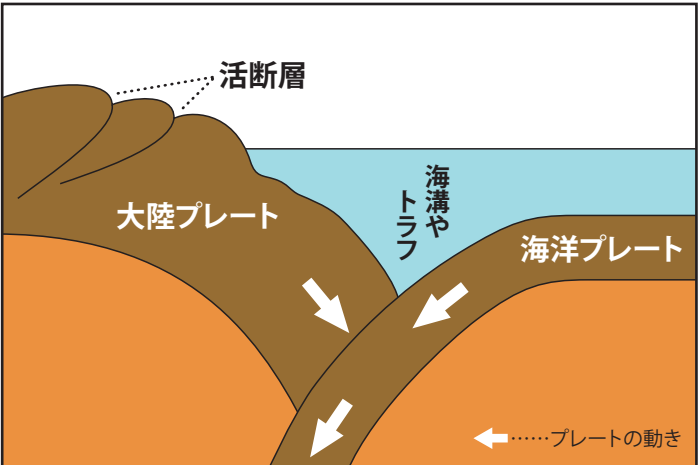
		東京湾北部地震 (M7.3)	多摩直下地震 (M7.3)	元禄型関東地震 (M8.2)	立川断層帯地震 (M7.4)
人的被害 (単位：人)	死者	約 9,700	約 4,700	約 5,900	約 2,600
	負傷者	約 147,600	約 101,100	約 108,300	約 31,700
	合計	約 157,300	約 105,800	約 114,200	約 34,300
建物被害 (単位：棟)	揺れ	約 116,200	約 75,700	約 76,500	約 35,400
	火災	約 188,100	約 63,800	約 108,100	約 50,300
	合計	約 304,300	約 139,500	約 184,600	約 85,700
帰宅困難者(単位：人)		約 517 万			

東京で想定される液状化やライフラインの被害

		東京湾北部地震	多摩直下地震	元禄型関東地震	立川断層帯地震
液状化の 建物被害	全壊	1,134 棟	817 棟	661 棟	20 棟
	半壊	63,045 棟	45,428 棟	36,731 棟	1,096 棟
上水道の断水率		34.5%	36.9%	45.2%	37.4%
電力の停電率		17.6%	8.8%	11.8%	4.0%

◀あくまで“地震が起こると仮定して”のものであることはわかっている、やはりショッキング

活断層とプレートのイメージ

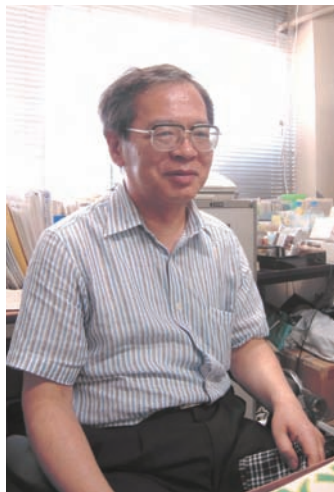


「今、目の前にある危機」に備え、私達は何をすべきなのか？

東日本大震災に学ぶ3つの教訓

地震への備え① 「生き延びる」ための蓄え

将来、大地震が起こる可能性について、川上先生は「数年後かもしれない。数十年、あるいは百年後かもしれない。けれどもいつかはやってくるもの」と考えるべきではないかと語ります。そう考えたときに私達がすべきこと・できることは一体何でしょうか？ それは「備え」です。



◀ 埼玉大学 地圏科学研究センター長 工学博士・川上英二先生。地震による建物の崩壊挙動を動的に解析する新方法を開発、注目を集める。

ライフラインの信頼性向上など行政が取るべき備えのほかに、個々人、あるいは民間としてできる備えには大きく分けて2種類あります。

ひとつは、「命そのものを守る」ためのもの。建物を強固にし、耐震性を高めることです。そして、もうひとつが「地震の揺れから生き延びたあと」に必要な準備と蓄えです。

地震後、すぐに援助が望めない可能性があることは、皆様もご存知のとおりです。3日は自力で生き延びることができるよう、食料や水、持病の薬や毛布といった万一の備えをそろえておくことは決して無駄にはなりません。また最も手近に始められる地震対策ともいえるでしょう。家族同士で安否確認の方法を取り決めておく、帰宅困難時に備えて避難マップや最低限の装備を勤務先にも用意する……といったような準備とともに、ぜひとも進めておきましょう。

地震への備え② 建物の耐震性が「命を守る」

命そのものを守るための努力も、なるべく早く手をつけるにこしたことはありません。まずはご自身の住まい、そして経営者やビル等の管理者の方であればそれぞれの施設の耐震性を確認することが大切です。もちろん不安があれば耐震補強工事は必須でしょう。

建物の強度診断と倒壊の危険性について、画期的な解析方法も研究されている川上先生によると、残念ながら現在用いられている設計方法、および構造計算には避けられない欠点があるといえます。というのも現在の設計法は、特定の震度に対し、「それに耐えうる・壊れない」という類いのもの。もっと震度が高かったときに、この建物はもつか?といったことに対しての答えは持っていません。

また、構造計算というものは、建物の強度を見積もるものであり、余裕をもたせて、どの階も均等な強さで設計されて

いることがしばしばです。本来1階が最も強固であるべきところを、上階層と同じ強度である傾向が強いのだとか。一戸建て木造家屋の地震被害の多くは1階からまず潰れていますし、日本人留学生に多数の犠牲者を出した、2011年2月のニュージーランド地震におけるビルの倒壊も、上層階の強度は1階に比べて余裕があり、その余裕を1階に回せていれば避けられたかもしれない、と川上先生はいます。

「地震による建物の倒壊は、いつときにバタンと全てが潰れるものではありません。構造的に弱いところに力が集中し、そこが倒壊の引き金となってしまいます。そうしたことが解明されつつある今後、建物造りに望まれるのは“均一な強度”ではなく、むしろ“意味のあるアンバランスな強度”ではないでしょうか。建設側の技術力の向上に期待します」(川上先生)

地震への備え③ 避難の思考訓練を

最後に川上先生からは、「第3の備え」ともいうべき提案が出されました。それは「避難の思考訓練」です。先の東北地方太平洋沖地震では、ご存知のように津波が被害を何倍にも増幅させていました。こうしたタイプの地震の際、重要なのは「いかに逃げるか?」です。私達の多くが、役所からの避難指示や、ニュースなどの速報が出たら逃げればよいと考えがちですが、「その点こそが教訓を生かす最大のポイント」と川上先生。

「大津波が発生するか否かは、地震の規模・エネルギー量に直結します。また規模の大きな地震ほど、揺れが長いのも特徴。ふつうの規模の地震なら、せいぜい長くても揺れは10秒程度ですが、そ

れより長い揺れの場合には、津波の来襲を疑ってください。そして海拔や海岸線からの距離に応じて、避難をすべきでしょう」地震大国に住まう日本人なら心に留めておきたい、新常識といえるでしょう。

また、なかなか自分の住む地域の海拔を把握している人は少ないものですが、これも知っておくにこしたことはありません。旅行や出張などに行く際には、列車や飛行機の時刻表を見るのと同じような感覚で、旅先の海拔を事前に調べたり、津波の際に逃げるべき高台はどこか?の目星をつけておくような情報収集も有用です。備えあれば憂いなし。ぜひこの避難の思考訓練も実行してみてください。

地震への備えは、耐震診断・耐震補強工事から

安心な暮らしは備えるところから始まります。お住まいの住居や、職場・学校・病院などの施設で不安があれば、耐震診断を受け、まずは補強が必要かどうかをお確かめいただくのがいちばんです。特に、建物の強度基準とされている“新耐震基準”以前に建てられた建物は、耐震

診断が急務。具体的には、昭和56年(1981年)5月31日以前に建てられた建物です。

当社では、耐震診断から耐震補強工事まで、専門技術を結集して請け負います。また複雑な補助金の申請などもお引き受けいたします。

補強工事例



▲ 耐震補強用の鉄骨ブレースを壁面に入れ込み、化粧仕上げ。三郷市立彦糸中学校、さいたま市立城北小学校の工事より



ご相談は無料です。お気軽にお問い合わせください ▶TEL: 0120-980-633 まで

いざというときに役立つ備え

◎最初の1日をしのぐ ➡ すぐ持ち出せるよう、リュックやバッグに

- ・飲料水 ・保存食 ・常備薬や持病薬 ・軍手 ・懐中電灯 ・ロープ
- ・携帯ラジオ ・携帯電話の充電器 ・筆記用具 ・メモ帳 ・ホイッスル
- ・タオル ・ポケットティッシュ ・ウェットティッシュ ・トイレトペーパー
- ・ろうそく ・ライター ・油性ペン ・粘着テープ ・ポリ袋
- ・簡易トイレ ・十徳ナイフ ・万能ばさみ ・避難マップ ・現金(小銭含む)
- ・救急袋(消毒薬、三角巾、包帯、ガーゼ、ばんそうこうなど)

◎3日を乗り切る ➡ 収納ケースなどにまとめ、物置やガレージに

- ・毛布 ・雨具 ・下着、靴下 ・簡易トイレ
- ・レトルト食品 ・アルファ米 ・即席ラーメン ・わりばし ・卓上コンロ

■ 建物倒壊は、弱点部分から始まる



▲最大震度6強を記録した2007年の新潟県中越沖地震の倒壊家屋。1階はほぼ崩壊した一方で、2階は比較的原形をとどめるケースが多かった。



■ 思考訓練に役立たいサイト



▲川上先生の研究から生まれた「図上避難訓練」のサイト。現在実験的に公開。任意の土地での津波や火災の侵襲がシミュレーションでき、どの辺りに避難したらよいかなどが調べられる。写真左：地震発生後約30分、湾に津波が襲ってきた(下部の赤いところ)。右：地震後50分前後には河川をさかのぼり、市街の奥まで津波が侵襲。

図上避難訓練(津波・火災) <http://www.saitama-u.ac.jp/kawakami/cgi-bin/zGC.cgi>

平成24年度

松永建設・大樹会安全大会を開催

「安全第一」を旗印に労働災害撲滅を目指す



▲「安全のために何をすべきかを、各自が主体的に考えよう」と説いた松永大祐社長



▶第二部では松永功会長より安全大会の第30回開催を記念する講演が行われました

◀竹内光男大樹会理事長からは、安全に一切妥協しない強い姿勢が示されました



安全宣言

- 一、墜落・転落災害をなくそう！
- 一、リスクアセスメントを推進し災害をなくそう！
- 一、交通ルールを守り事故をなくそう！



今年、記念すべき30回目の開催となった安全大会。「安全第一」をモットーに、より一層労働災害の防止に努める旨が確認されたほか、松永 功・松永建設代表取締役会長より記念講演が行われるなど、いつにも増して意義深い大会となりました。



▲ 無事故・無災害で安全管理に努めた9社、21名が安全表彰を受賞。その努力と功労を称え、松永社長から表彰状と記念品が手渡されました

安全表彰受賞者

【特別功労の部】

- ◆竹内電気(株) 代表取締役社長・竹内光男氏 ◆(株)松永建設 建築部シニアエキスパート・村松敏多
- ◆(株)松永建設 土木部エキスパート・石井 敦

【優良協力会社の部】

- ◆NIPPO (株) 埼玉東出張所 ◆(株)カワムラ ◆(有)佐々木左官工業 ◆和宏体育施設(株)
- ◆(有)片柳建設 ◆湯本内装(株) ◆(有)湯沢サトー工業 ◆村中建設(株) ◆(株)ベスト

【優良作業所の部】

- ◆藤倉ゴム工業(株)加須工場改修工事＝中山雅央 ◆ABオービットマンション新築工事＝高橋寛臣
- ◆ワッツ東館公共施設床改修工事＝須藤伸誓 ◆CCEJP埼玉工場新ライン建設工事＝伊藤賢太
- ◆さいたま市立美園小学校校庭整備(芝生)工事＝布村慎哉 ◆H22荒川古谷本郷上築堤工事＝塙 和博
- ◆NTTコム千葉港ビル模様替工事＝後藤淳宏 ◆北海製罐(株)岩槻工場S15ライン設備工事＝森脇大介
- ◆(株)大松建設 総務省浦安総合センター 1件(11)建築改修その他工事＝若林和美

【優良職長の部】

- ◆徳本洋明氏[(有)佐々木左官工業] ◆石山国博氏[横山工事(有)] ◆佐藤将和氏[(株)島村工業]
- ◆能武宏昭氏[和宏体育施設(株)] ◆森田 満氏[(有)片柳建設] ◆加藤重悦氏[(有)湯沢サトー工業]
- ◆江口忠明氏[(株)ベスト] ◆吉野秀二氏[(有)ミサワシステムガード] ◆宮本君高氏[(有)清水工業]

去る6月19日、市民会館いづき大ホールにて「平成24年度 松永建設・大樹会安全大会」が開催されました。30回目という節目の今大会には、松永建設の社員を初め、協力会社で構成される大樹会会員各社など、600人以上が集まりました。来賓に春日部労働基準監督署・菅谷賢一署長、岩槻警察署・萩原勝美交通課長、小山労務管理事務所・小山茂樹所長の3氏をお招きして、「安全」を改めて心に誓う大会が幕を開けました。

開会に先立ち、国歌斉唱と物故者への黙祷が捧げられ、続いて川村竹男・大樹会副理事長[(株)カワムラ社長]より高らかに開会宣言が発せられ、大会本編がスタート。まずは主催者代表の松永大祐社長が演壇に立ち、安全大会が30回目、そして松永建設が第50期を迎える節目の年度にあたることを力強く述べました。そして、安全管理の基本に立ち返り「安全はすべての作業に優先する」とその重要性を説きました。厳しい状況の中でも、“人”がすべてであり、その安全を最優先していかなければ

ならないこと、それは社会的責任でもあるとの言葉に、参加者も今一度身を引き締める思いであったことでしょう。

続いて竹内光男・大樹会理事長[竹内電気(株)社長]からは、昨年より大樹会では“年間完全無災害”を達成しており、今なお継続中ではあるものの、一步間違えれば重大災害に繋がる事例もあると、安全管理のさらなる徹底が呼びかけられました。そして遠藤明德・大樹会理事の音頭で安全宣言の唱和、松山敏彦・安全衛生委員長からは安全活動計画の報告がなされ、また大樹会の活動を通して労働災害の撲滅を図る、さらなる協力が一同に要請されました。

続いての安全表彰では、無事故・無災害に努めた特別功労賞3名、優良協力会社9社、優良作業所代表9名、優良職長9名の表彰が行われました。(下欄参照)

後半の第2部では、まず竹内光男・大樹会理事長の講演。全国安全週間のスローガンの歴史が介されると共に、過去の大樹会の安全への取り組みについての講話がありました。

続いては、松永 功・松永建設会長より、“「信以為宝」～これまでの49年、これからの51年～」と題した第30回記念講演が行われました。講演では松永建設が創業した49年前から現在まで、日本経済の動向と建設投資額など、当時の社会情勢に照らした建設業界の歴史がひも解かれました。そしてまた、今後の社の姿勢として、「信を以て宝と為す」という社是が改めて紹介され、「経営理念は憲法。社員や協力会社の皆さんに守っていただき、みんなで強くてよい会社を創ってほしい」とのメッセージが発せられました。

この大会を通して、さらなる安全・無事故・無災害への誓いを胸に刻むこととなったのではないのでしょうか。

お客様の
ご紹介

「24時間365日」体制で子どもを守る、地域の頼れる病院へ――

医療法人 土屋小児病院 様



◀ アルミとタイル、異素材が見事に同居した建物は、モダンなのにやわらかい印象。前面でゆったりとしたカーブを描くガラスブロックには、所々カラーのものが混じっていて楽しい



▲ 患児の症状と診察方法に合わせて4つある入口が特徴的

久喜市にある土屋小児病院がこの7月、新築移転にともない新装開院を果たしました。これにより当病院は、久喜市をはじめとする県北東部の中核拠点病院として機能強化がなされ、同時に、済生会栗橋病院と連携し「24時間365日」の小児二次救急医療体制を完成させたこととなります。

いま日本では地域医療の空洞化が懸念されています。わけても小児科や産科の現状は危機的。全国各地で中小の病院が閉鎖に追い込まれたり、人材の疲弊とそれによる医師不足が深刻化しており、埼玉県でもそれは例外ではありません。そうしたなか立ち上がったのが、土屋小児病院の土屋喬義院長でした。「苦境に立たされている県北東部の医療を、なんとか再生の道へ――」という院長の強い想いが、県の思惑と合致、地域医療再生基金を一部原資として今回の新築移転が行われました。

ところで、このたび整備された二次救急医療体制とは、どのようなものなのでしょう？ 一次救急との違いを土屋院長にうかがうと、こんな答えが返ってきました。



▲ 土屋喬義院長と土屋恭子副院長

「一次は、救急のうちでも軽度なものを指します。処置後は家へ帰れるレベルです。二次は入院治療が必要なレベル。そして三次は命に関わる重篤な状態で、もっと高度な医療を必要とします。当院では昼間は通常の小児医療を行います。が、救急や時間外診療においてはこの二次部分を担当します」

救急医療においてこの一次～三次の線引きは不可欠なもの。なぜならベッド数や当直医・スタッフ数には限りがあり、どんな患児でも受け入れては、必要ときに必要な患児の治療が行えない恐れが出てきてしまうのです。

とはいえ、具合の悪いお子さんがいれば親御さんは心配でたまりません。そうした親御さんをフォローする、電話での問い合わせシステムが土屋小児病院には確立されています。電話番号の識別機能と診察券番号が当院ではリンクされていて、休日夜間の問い合わせには、看護師がカルテを見ながら救急の要・不要を返答できるシステムです。「その状態なら、いまは様子見て大丈夫」などのように言ってもらえる安心感は、親御さんには何より心強いものでしょう。

「当院は特別なことは何もない、ごく一般的な町の小児科です。でも、電話でのひと言で安心感を提供することができる――これだけは当院ならではの個性であり、自慢だと思っています」そう語る土屋院長の顔には、穏やかで温かい笑みが広がっていました。

完成した新病棟は、モダンながらにぬくもりのある建物。病院のイメージとは一線を画す、居心地のよさが自慢です。色とりどりのガラスブロックも楽しければ、診察室ごとに描かれたやさしい動物の絵は今頃きっと子どもたちの人気となっていることでしょう。



▲ 間接照明がやわらかい光を投げかける一般外来受付



▲ 明るい色彩が気持ちを和やかに



▲ 広々としたプレイルームも完備

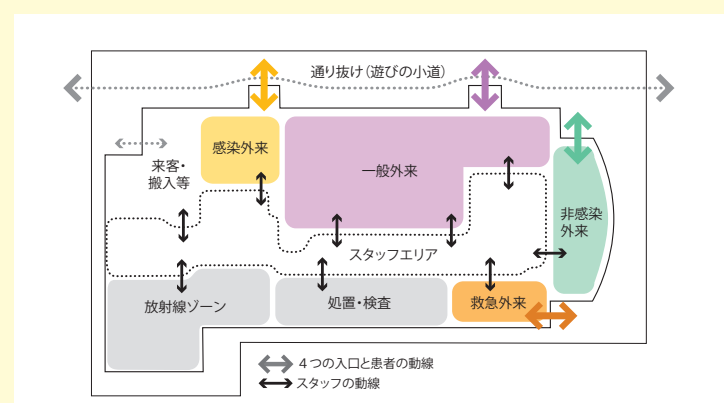


◀ トイレもすべて子ども目線

建設業は、つきつめれば社会インフラの建設や整備を通して、地域の皆様に安全と安心を届けることと同義です。今回の新築移転も、地元・埼玉の未来につながっていく極めて重要な事業であるとの想いで当社は施工にあたらせていただきました。土屋小児病院様が地域にとって、よりかけがえのない病院となるお手伝いのできたことは幸いです。



◀ 建築部 工事グループ 弥栄裕己係長



◀ 入口および診療エリアは①一般外来、②感染外来、③非感染外来、④救急外来の4つに分かれる。これで感染のリスクは最小限に

土屋小児病院様へのお問い合わせは▶▶▶TEL:0480-21-0766 まで

【住 所】〒346-0003 埼玉県久喜市久喜中央3丁目1-10 久喜駅・西口徒歩5分
【URL】<http://www.tsuchiya.or.jp/hospital/>

お客様の
ご紹介

ゲリラ豪雨に万全の備え——地下埋蔵型・雨水貯水池の大規模工事

さいたま市台・一ノ久保特定土地区画整理組合



◀▲ 洪水調節システムとしての巨大な雨水プールを建設・埋蔵する。優良住宅地として見込まれている一帯に、大きな安心をもたらす事業。埋め戻した後は一般の用地に(写真右)

6月末に1年がかりの施工を終えたのは「2号調整池築造工事」の2期工事でした。これはさいたま市見沼区南中野の土地に、雨水などを一時的に貯水する調整池をつくるもの。

調整池の築造工事は過去、数えきれないほど当社で手がけてきましたが、旧来の工事——穴を掘り下げ、野天にいわゆる池をつくる方法——とは異なり、今回は初の「地下埋蔵型」調整池の工事。雨水を貯めるプールをまるごと地下に収納するようなイメージです。

その工事の象徴的なワンシーンが上の写真です。巨大な穴を掘り、コンク

リートの基礎を打った後、コンクリート製のこれまた巨大な壁と天井を地下に組み上げていきます。そしてプールの完成後は、もちろん埋め戻しをすることで、通常の用地として使えるようになります。この点が地下埋蔵式の何よりの利点です。

調整池の深さは3m。ここになんと3800㎡——6コースの25mプールにして約10杯半——もの雨水を貯めることができます。「もともとこの調整池は、周辺で最も低地に設けられています。その上この貯水量ですから、近年日本各地を脅かしているゲリラ豪雨の脅威

に対しても、大きな力を発揮するのではないでしょうか」と、現場所長を務めた鹿山祐治主任。

当該地域は、大宮駅にも東武野田線・大和田駅にも近い土地柄上、優良住宅地として見込まれている一帯です。今回の調整池工事も、都市整備事業の一環として行われたもので、地域の方々、そして将来の住民の方々に向け、大きな安心をもたらすお手伝いをさせていただけたことは光栄です。

側溝などから集められた雨水は、下流環境や安全などに配慮しながら少しずつ川に放出されることになります。



▲土木部工事グループ
鹿山祐治主任

遠からず当地は公園などへと転用されることになるでしょう。もしかすると皆さんの見えない足下にも、大きな安心が埋まっているかもしれません。

お客様の
ご紹介

「個性」と「自然との調和」が見事に同居

上杉様邸 新築工事



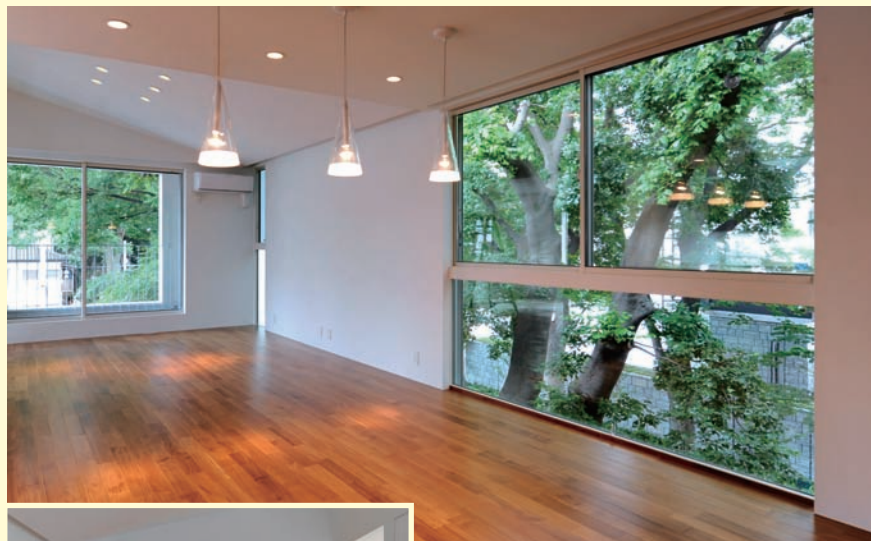
▲採光を生かした吹抜けが随所に

さいたま市大宮区にこの夏、上杉理夫様の新築住宅が完成しました。外観写真からもおわかりいただけるように、小ささまざまな窓が配され、家の中に光のモザイクが描き出されるモダンなお宅ができあがりました。

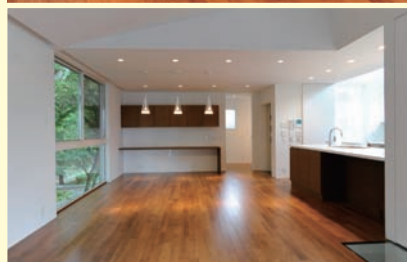
武蔵一ノ宮氷川神社の参道に面する、緑あふれる一角にお宅を建てることになった上杉様からは、設計事務所に大きなリクエストがひとつだけ出されました。それは「個性がありながらも、参道の自然に調和するものを」というものでした。それを基に建てられたのが、点在する窓で、光と参道の木々の緑を切り取ったような上杉様邸。天然木を多用した、モダンながらもとてもナチュラルなテイストに仕上がりました。特に

3階のLDKでは、大きくとった窓からの景色と、チーク材のフローリングが見事に呼応し合っています。

「ロケーションを生かして1階はテナント貸しをしたい」という意向が反映され、1階は鉄筋コンクリート(RC)造、2～3階は木造というユニークな構造になりました。その特殊なつくりを確実に施工するという観点から、施工会社として当社を選定してくださったそうです。担当した東 正行グループリーダーによれば、意匠の凝らされた仕様だっただけに、工事の難所は多かったといえます。微細な本格タイルの目地を正確に合わせていく外壁の作業や、同じくタイルで角のきれいなR形状を出す作業。また内装に関しては、回り縁や幅木を用



▲◀ 塗りの白壁と、濃淡の表情が美しいチーク材のフローリングが絶妙なコントラストを描くLDK。キッチンの上部も実は吹抜けに



いず、見映えがすべてを左右する点などに、細心の注意を傾けなければなりません。しかし、一切の妥協が許されない仕事こそが、「建物の品質向上へとつながっていくと思うと、力の尽くし甲斐がありました」と、東リーダーも充実した表情をのぞかせました。

「窓外の景色を楽しみながら過ごす毎日は格別です」とおっしゃってくださった上杉様。ご家族3人の新たな生活がますます彩りに満ちたものになられるよう、お祈りしております。



▲新しい家とともに、上杉様ご家族の笑顔もますます輝いて

▶建築部 ABホームグループ
東正行グループリーダー



松永建設グループ
友の会NEWS

たくさんのご参加ありがとうございました!

東京スカイツリーからの展望を楽しんだ2日間

主に地主の皆様方の情報交換・相互交流の場としてお役立ていただいている「松永建設グループ友の会」。その会員の方々をお招きして、去る7月3～4日、初夏の交流イベントを催しました。

総勢30名を超える皆様方にご参加いただいた今回のイベントは、なんと泊まりがけ。完成して目下、大変話題となっている東京スカイツリーを初め、東京の下町・中心部界隈を、2日間かけてたづね楽しんでいただこうという趣旨でした。

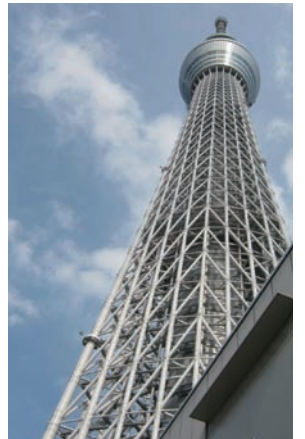
ところが……初日は残念ながら雨天。日本の経済の中枢をのぞいていただこうと企画した日本銀行の見学ツアーの後、繰り出したスカイバス(2階部分の屋根がないオープンタイプのバス)での皇居・銀座界隈の車窓観光では、あいにくの荒天につき、カップ着用をお願いしなければなりません。その後お風邪は召さ

れなかったでしょうか?

その晩は、料亭「東京・芝 とうふ屋うかい」で豆腐会席に舌鼓を打っていただいた後、東京タワーを間近に臨む東京プリンスホテルに1泊。そしてなんと翌日は、前日のことがうそのように朝から快晴に恵まれたのでした。

もちろん、スカイツリーからは絶景が楽しめたことは言うまでもありません。地上450mにある天望回廊には、スロープ状のガラス張り回廊がぐるりと。「まるで空中を散歩しているような気分」といった声が次々と上がりました。最後は浅草、昼食と浅草寺参詣で締めました。

振り返ってみれば雨天あり・晴天ありの波乱(?)に富んだイベントでしたが、「楽しかった」という感想を最後に皆様から頂戴したのは何よりでした。次回開催も楽しみにお待ちしております。



◀ つい先日、来場者100万人突破の報が流れた人気の東京スカイツリー。空中散歩を思わせる天望回廊でのひとときを楽しんでいただきました。

2012

人形のまち
岩槻まつり

8/19 [NIS]
開催!

「松永サマーフェス2012」にぜひお越しください!



▲ 社員有志が楽しいステージを披露します。皆様もカラオケで参加しませんか?

来たる8月19日(日)に開催される岩槻まつりに松永建設グループは今年も参加します! 「松永サマーフェス2012」では、ビールなどのドリンク類と社員が腕を振るうフード、そしてとびきりの笑顔が皆様をお迎えします。社員による生バンド演奏やカラオケを聴きながら、ぜひ暑気払いを。もちろん飛び入り参加も大歓迎です。皆様のお越しを楽しみにお待ちしております。

【開催日】平成24年8月19日(日)
【時 間】15時~21時(予定)
【場 所】松永都市開発(株)駐車場
[岩槻駅・東口より徒歩3分]



▲ 社員が腕によりをかけて味をご賞味ください。



▲ ビール片手に大声援をお願いします!

社長の
男気
コラム

耐震の現状に思う——

いまこそ安全と維持の新しい発想を



1、2面でご登場いただいた埼玉大学・地圏科学研究センター長、川上英二先生の談話は大変興味深いものでした。建設業に携わる者として大いに刺激を受けたといっても過言ではありません。ここ近年、弊社は教育施設や医療施設など数多くの耐震補強工事を行ってきていますが、これは言い換えれば、地震に耐えうる強度を持った施設がいかにか現状少ないかということを実感しています。過日も、橋梁の安全な耐用年数がじつは50年程度に過ぎないというニュースが発表され、新たな社会不安を呼び起こしました。高度成長期に数えきれないほど日本中に建設された橋の多くが、次々と「耐用年数切れ」を起こしつつあるわけです。

それでも、子どもたちの命と未来を守ることを優先し、学校などは耐震補強工事が積極的に進められているほうです。公共の施設などは、大型の建物はともかく、公民館や図書館など比較的中・小規模の建物は残念ながら後回しになっているのが現実ではないでしょうか。また病院や福祉施設、工場や倉

庫などの民間の施設なども同様に、「手つかずのまま」といったものが多く見受けられます。

耐震化がなかなか進まずにいる背景には、いまの日本の社会のありようなども大いに関係しているとは思っています。ご存知の通り少子高齢化が進んでいる我が国。労働人口の減少が危惧されている昨今では、大企業ばかりでなく中小企業も積極的に海外進出を行い、労働力確保を図っています。経済のグローバル化がこうした状況に拍車をかけているでしょう。このような状況下、企業は既存施設への投資を躊躇せざるを得ない環境にあります。既存施設が老朽化しても、建て替えなどをする余裕はとてもないのが現実かもしれません。

日本社会のありようや海外各国との関係性などが根本から変わらない限り、こうした状況に歯止めがかかることは恐らくないでしょう。そう考えたとき、やはり重要になってくるのは、限られた投資で最大限の安全や耐震を確保する、という発想へ転換すること。そして、

「建物のプロフェッショナル」としてこのようなご提案を積極的にさせていただくことが、弊社の使命なのではないかと思うのです。

巷でも言われている通り、もはや世の中は「Scrap & Build (=壊しては造る)」の時代ではありません。いかに安心・安全を保ったまま施設を維持し、活用し続けるか? それが新時代の建設のあり方ではないかと思うのです。

建設業のあるべき姿とは、街をつくることです。松永建設はこれからもより一層、地元・岩槻、地元・埼玉のために、街の活性化のお役に立つ所存でおります。まずは、目前に迫った「岩槻まつり」から最初の一步を始めようと思います。人の住まうところに街あり。人の住まうところに祭りあり。私自身もステージに立ちます。そして街の皆様に元気と活気をお届けすることをお約束します。お時間が許せばぜひ、岩槻まつりにお越しください。